

**株式会社三菱総合研究所 2018年9月期 決算説明会
質疑応答記録（要旨）**

【課題案件について】

Q) 課題案件の詳細を伺いたい。

A) お客様があることであり具体名等は差し控えたい。民間の大型システム開発案件で、所定の品質が確保できず障害が収束しないため、引当金を計上した。金額は今後の改修のために必要なコストを見込んだもの。

Q) 課題案件の影響で19年9月期の機会損失8億円分（説明資料P18）の中身は何か。

A) 課題案件の対応に、今期は人材ローテーションなどさまざまな手当が必要と考えている。対応にあたる担当者が通常どおりの業務ができないことの機会損失を見込んだ。

Q) 課題案件のリリースはいつか。対応にあたることで、他の案件への影響は無いか。

A) リリースはお客様と調整しながら進めるため、現段階で明確に回答できない。対応にあたる部署の目標を下げ、体制面の手当も行っている。収束に向け最優先で対応する。

【2018年9月期実績について】

Q) シンクタンク・コンサルティングサービス（TTC）が、売上減でも増益の理由は。

A) 事業ポートフォリオ改革として、大型でも利益率が低い案件は見送り、より利益率が高い案件に注力する取り組みを進めている。結果して利益率が改善している。働き方改革の一環でもある。

Q) TTCの営業利益率は、業界水準と比較して高いのか。さらなる引き上げ余地はあるか。

A) 顧客や案件の性質により利益率は大きく異なる。一般的には、民間の方が高く、さらにストック型の事業の方が高い。昨期の9.3%が十分高い水準とは思っておらず、今後一層高めたい。

Q) ITサービスの実績のうち、金融・カードは堅調とのことだが、減ったものは何か。

A) 金融・カードは微増（想定通り）であり、残りの一般産業・官公庁向けもほぼ横ばい（微減）。

【中期経営計画2020について】

Q) 官民共創ソリューション事業、民間向け事業の計数面での計画について。

A) TTCは中計2年目計画を1年前倒しで達成した。2020年度の目標達成に向けて先行投資を行うため、2019年度は横ばい。投資効果の年度後半からの発現に期待。

Q) ストック型事業の現在の収益規模はどの程度か。

A) ストック型の新事業は、まだ10億円程度の規模であるが、利益率は高い。

以上